

音楽科学習指導案

日時 平成23年11月10日
学級 紫波町立紫波第二中学校
1年2組 28名
場所 音楽室
授業者 井上 美津子

物語と音楽

1 題材について

(1) 指導内容

B 鑑賞 (1)ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。
〔共通事項〕 音色、リズム、旋律、強弱、速度

(2) 題材について

本題材では、音楽の構造的側面（音色、リズム、旋律）、表現要素（強弱、速度）を知覚し、音楽の感性的側面（雰囲気・曲想）をイメージや感情を持って聴く力を身につけさせたい。そして、人間の声の持つ魅力を感じて、日常の歌唱表現（合唱活動）においても、歌詞から受けるイメージや感情などに合わせた声の多様な表現活動につなげていきたいというねらいで設定した。

「魔王」はシューベルトが18歳の時にゲーテの詩に出会い、深く感銘を受けて作曲した歌曲である。「魔王」の劇的な世界観がよく表れていて、シューベルトの歌曲の中でも、最もよく知られている曲の一つである。

「魔王」の歌曲としての美しさや劇的な効果を生み出す要素は様々ある。登場人物の心情の変化が音高や調性（旋律）、強弱によって書き分けられている。また伴奏は馬蹄の音を3連符で（リズム）表現している。歌い手は語り手を合わせて4人の登場人物のセリフを音色の変化で歌い分けるところに、大きな魅力を感じることができる曲である。

詩と音楽性が一体となった独特の通作形式となっていて、詩（物語）と歌と伴奏が深く関わった音楽であるということを感じさせたい。

(3) 生徒について

1学期には、ヴィヴァルディ「春」の鑑賞において、ソネットが表す情景を弦楽合奏の楽器の持つ特有の音から、言葉で春の情景を想像するという活動を行った。また想像した言葉から春の情景を絵で描く活動を行った。その学習活動によって、音楽は聴いている人に様々な感情を与え、様々なイメージを描かせるということを実感することができた。また、「夏の思い出」では、ピアノ伴奏に着目させ、同じ旋律でも、ピアノ伴奏の変化を感じ取りながら、歌い、歌唱と鑑賞を関わらせながら、雰囲気の変化を味わって歌うことができた。

(4) 研究との関わり

音楽を形作っている諸要素から自分の考えを持つという思考・判断の場面を、本校の聴き方レベルLV4「聴いたことから自分の考えを持つ」に関連させるようにしたい。

また、「考えを表現し合う活動」では「魔王」のイメージを想像させた結果から、4人程度のグループを組織させ、学び合う活動を取り入れたい。

2 題材の目標

- (1) シューベルトが工夫した音楽効果表現方法を感じ取る。
- (2) 詩と音楽が一体となって劇的な効果を生み出している作品の雰囲気味わう。

3 教材

- ・「魔王」 Goethe 作詞/Franz Peter Schubert 作曲
歌 ディートリッヒ・フィッシャー・ディースカウ
ピアノ伴奏 ジェラルド・ムーア
- ・「野ばら」 (同上)

4 題材の評価規準

	観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽的な感受や表現の工夫	観点4 鑑賞の能力
題材 の 評価 規 準	楽曲に興味を持ち、その音楽を構成している諸要素が生み出す曲の雰囲気に関心を持って聴こうとしている。	楽曲の雰囲気を醸し出している音楽の諸要素に気づき、音楽的表現の豊かさを感じ取っている。	自分のイメージや感じたことを自分の言葉で表現することができる。
具 体 の 評 価 規 準	① 詩の内容や「魔王」に興味を持ち、じっくりと聴こうとしている。 ② 音楽を構成している諸要素が生み出す楽曲の雰囲気に関心を持ち集中してきいている。	① 音楽を構成している諸要素が生み出す楽曲の雰囲気や曲想の違いに気づき、感じ取っている。	① 音楽を構成している諸要素が生み出す楽曲の雰囲気や曲想の違いを感じ取り説明することができる。

5

指導と評価の計画（2時間扱い）

時	学習活動	具体の評価 規準との関連	教材曲
1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○「魔王」の詩（物語）の内容をつかむ。 ○登場人物をどのような声で歌い分けるか予想する。 ○「魔王」を聴き、諸要素からシューベルトの作曲の工夫を感じ取る。 	観点1－① 観点2－①	「魔王」
2	<ul style="list-style-type: none"> ○「魔王」のピアノ伴奏の音楽的工夫を考える。 ○「魔王」が詩（物語）と歌と伴奏と一体となった音楽であるということをふまえ、鑑賞する。 	観点2－② 観点4－①	「魔王」 「野ばら」

6

本時の指導（第1時）

【目標】 「魔王」の詩の内容をつかみ、諸要素から歌の表現の工夫を感じ取る。

具体の評価規準	十分満足 (A)	努力を要する生徒への支援 (C)	評価方法
【観点1－①】 詩の内容に興味を持ち、じっくりと聴こうとしている。	詩の内容や物語に興味を持ち、教師の朗読を集中して聴き、声に出して音読して、登場人物を把握している。	日本詩などを集中して読むように、物語の内容や登場人物がわかるように支援する。	学習シートへの記入
【観点2－①】 音楽を構成している諸要素が生み出す楽曲の雰囲気や曲想の違いに気づき、感じ取っている。	それぞれの旋律の音色や音高などの諸要素を知覚して、楽曲の雰囲気や曲想の違いに気づき、感じ取っている。	グループごとに発表する際に、他の考えを参考にしながら、自分の感じたことを言葉にさせる。	観察 発言 学習シートへの記入内容

【展開】

	ねらい ○学習内容	具体的評価 基準との関連	◎留意事項 ☆評価方法 □場の設定
導 入 5	<p>1. 学習課題の把握</p> <p>(1) 「魔王」という言葉からイメージしたことをまとめた結果を知る。</p>		<p>◎宿題として事前に書かせた「魔王」のイメージから、「魔王」に興味を持たせ、学習していくことを知らせる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>「魔王」の歌の工夫を発見しよう</p> </div>			
展 開 35	<p>2. 課題の追求</p> <p>(2) 「魔王」の詩（物語）の内容をつかむ。</p> <p>(3) それぞれの登場人物のイメージ、性格、会話などが、どのように表現されるかを予想してみる。</p> <p>(4) 一度通して聴き、1人が4人の登場人物を歌い分けて表現していることを知る。</p> <p>(5) 各登場人物（場面）ごとに聴かせ、どのような声で歌われているか、感じ取る。</p> <p>(6) グループごとに発表し、交流する。</p>	<p>観点1ー①</p> <p>観点2ー①</p>	<p>◎一度教師が朗読した後、生徒に音読をさせて、登場人物をつかませる。</p> <p>◎自分で考えさせ、ワークシートに記入させる。</p> <p>☆ワークシートの記入</p> <p>◎予想を何人かに発表させる。</p> <p>◎場面ごとに、教師がカードを掲げ、物語の進行がわかるようにする。</p> <p>◎登場人物を表現するための手がかりとなる諸要素を提示する。また、ヒントとなるドイツ語にもふれる。</p> <p>□4人グループになり、感じとったことを話し合う。</p>
終 末 10	<p>3. まとめ</p> <p>(7) 一度まとめとして聴く。</p> <p>・シューベルトは「魔王」の登場人物の心情を表現するため、旋律の音の高さの変化や転調、強弱などの工夫をしている。</p> <p>(8) 次時の学習内容を知る。</p>		<p>◎歌い手の声の音色の変化もこの曲を魅力的にしていることにもふれる。</p> <p>◎次時はこの曲のもう一つの音楽的工夫であるピアノ伴奏について学習することを</p> <p>知る。</p>

板書計画

課題

「魔王」の歌の工夫を発見しよう

「魔王」という言葉からどんなことを想像
(イメージ) するか。

〈アンケート結果〉

怖い 暗い デビル、王者、デーモン
黒、 …

魔王の登場人物

・魔王 ・父 ・子 ・語り手

手がかりとなる、音楽の要素

強弱

声 (旋律) の高さ

リズム

登場人物	予想	シューベルトの工夫

手がかりとなる「ドイツ語」

Mein Sohn (ぼうや) Mein Vater (お父さん)

war tot ()

まとめ

シューベルトは、「魔王」の登場人物の心情を
表現するために、旋律の音の高さや、強弱などの
工夫をしている。